

多中心性に発生したと思われる 小腸・大腸悪性リンパ腫の1例

たけ ばやし まさ たか
竹 林 正 孝

キーワード：大腸悪性リンパ腫，小腸悪性リンパ腫，多中心性発生

要 旨

同時性に多発した大腸原発悪性リンパ腫を経験したので報告する。症例は80歳代，男性。主訴は高度貧血。大腸内視鏡検査にて上行結腸とバウヒン弁2箇所¹⁾に病変を認め，生検で2箇所とも悪性リンパ腫 (diffuse large B-cell lymphoma) と診断されたため手術を施行した。盲腸・上行結腸に腫瘤を触知し右半結腸切除術を施行した。さらに空腸にも腫瘍を触知したため，小腸部分切除術を追加した。切除標本では盲腸にⅡc病変，上行結腸に全周性潰瘍性病変を認め，小腸には全周性のⅡc様病変と肛門側に小型の潰瘍性病変を認めた。病理組織検査では結腸2病変，小腸2病変は同様の組織型を示し，単核のlymphoid cellsがdiffuseに増殖しており，免疫組織染色にてmalignant lymphoma (diffuse large B-cell type) と診断された。大腸悪性リンパ腫は大腸原発悪性腫瘍の1%以下を占めるに過ぎない。なかでも小腸と大腸に同時性にしかもそれぞれ多発した例はまれである。文献的考察を加え報告する。

はじめに

消化管原発の悪性リンパ腫は，節外性リンパ腫の中では最も頻度は高いが，発生部位は胃，小腸に多く大腸での発生はまれである¹⁾。今回われわれは，小腸および大腸に同時性かつ多発性に発生した悪性リンパ腫の1例を経験したので若干の文献的考察を加え報告する。

症 例

症例：80歳代，男性。

主訴：高度貧血，浮腫。

現病歴：左大腿骨転子部骨折で整形外科入院中であった。整形外科術後に進行性の貧血が認められ，さらに下腿浮腫，胸水貯留，下血等が認められたため精査が施行された。

現症：身長160 cm，体重46.5 kg，血圧106/72，脈拍67/分，整。眼瞼結膜に貧血あり。眼球結膜に黄疸なし。胸腹部理学的所見に異常は認めな

Masataka TAKEBAYASHI

島根県済生会江津総合病院外科

連絡先：〒695-8505 江津市江津町1016-37